

第1回 学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和7年5月8日(木) 午前10時から正午まで

2 会 場 吉田特別支援学校 会議室

3 参加者

○委員

駿遠学園管理組合園長 藁科 知行 様

浜松学院大学教授 山田 浩昭 様

木村飲料株式会社 常務取締役 木村 祥吾 様

ハイナン農業協同組合 流通販売部長 峯野 利也 様

吉田町片岡区 自治会長 伊吹 雅夫 様

保護者代表 佐塚 由香 様

○アドバイザー

浅井 健 様 吉田町教育委員会 学校教育課

○学校職員

校 長 伊藤 聖子 副校長 松本 比呂美 事務長 土戸 美樹

教 頭 鈴木 淳也 分教室教頭 杉本 友紀乃 小学部主事 和田 加恵子

中学部主事 小野田 朋弘 高等部主事 菅野 圭 肢体訪問統括 安池 郁乃

教務主任 松浦 ゆか コーディネーター 岡本 広美



4 議事録

＊開会前に全校集会の様子を5階から参観。(本校10周年記念、ドローン撮影)

(1) 校長挨拶

今年度は10周年記念。全校集会を行い、本日スタートをきった。

あいうえお作文で、今年度頑張っていきたいことを伝える。「よ」く話す。直接コミュニケーションを考えている。児童生徒はもちろんのこと、地域・保護者とも直接的にコミュニケーションをとってきたい。「し」10周年。歌を作ってみよう！チャレンジ大作戦！等々生徒発信で進めていく。学校運営協議会では、吉田町にある学校の意味を考えて取り組んでいこうと考えている。吉田町はICTにたけている。その点を参考にさせていただきたい。その他地域の活動やもの、人が、教育の中にどのように活用できるのかを一緒に考えていただきたい。「と」びきりいい子たち！「く」知的障害の教育は繰り返し学習することが大事！知的障害のある生徒たちの良さを生かした学習をすすめていきたい。

(2) 会長及び副会長の選出

会長 藁科 知行 様 副会長 山田 浩昭 様 地域コーディネーター 伊吹 雅夫 様

(3) 職員紹介

(4) 協議 進行：藁科会長

ア【令和7年度学校運営方針について】

・学校経営計画について

教育理念は引き続き「つながり合い学び合う」とし、共生社会の実現を目指す。今後の１０年間にどのような共生社会を推進するのか考えている。具体的には、障害の有無に関係なく児童生徒が同じ場所でお互いに学ぶことができる共同学習を実現したい。学校経営計画は、３年後にどんな学校になっていたいかを考慮して、具現化の柱を設定した。昨年度学校運営協議会で「授業」を一番に考えていこうよ！という助言があり、「授業」を冒頭に明記し特に注目することを示した。吉田町に学校が所在することを活かした、コミュニティスクールの学校運営につながる授業展開をめざしている。

「連携」では、学校だけで教育を抱え込まず、地域社会へ子どもを返して、地域ぐるみで育てていこうという方針から下校時刻が早くなった。「安心」では、大規模災害に備えた防災の取り組みを強化したい。そして、今年度から成果目標は数値ではなく願う姿を基準にして評価することにした。

・学部経営について

学部経営計画をもとに、主に力を入れて取り組みたいところを各学部主事、分教室は教頭が説明した。

小学部は、「げんきに なかよく すすんで 活動できる児童」を目標に、「授業」では「やりがえと手ごたえのある」授業の実践。下校が早くなった分、教員の教材や授業準備の時間としている。「連携」では、吉田町の特色を生かしたコミュニティスクールの推進。「安心」では自他の良さに気付くように「ありがとうカード」や「すばらしいカード」の活用を行う。中学部では、「自ら動き 仲間とともに 自信をもって 生活できる生徒」を目標に、「授業」では、学部研修を中心とした授業計画や授業実践。午後の日課が変わり余裕をもって教材研究の時間としている。「連携」では、キャリアパスポートの作成。自立活動の課題の整理。ICT に関する授業では吉田町立学校の実践を参考に、本校で活用する。「安心」では、ケアアップ研修の定期的な実施。高等部では、「地域の中で 自分らしく 全力で力を発揮できる生徒」を目標に、やりがいと手ごたえを生徒に感じてもらうために、特に作業学習に力を入れる。農耕班は、稲作に取り組む。「連携」では、地域の方々の力を借りた本物に触れる学習。１０周年に向けて生徒会を中心に活動していく。肢体訪問教育では、各学部の経営に沿って取り組みを計画している。また、自立活動の内容が生活の中でどのように生かされているのか話し合う時間を設けていく。１０周年に向けては、バースデーソングを作成して盛り上げている。「連携」では、中学部の図書委員にお勧めの本を紹介してもらって本に親しんでいきたい。児童生徒が互いに認め合いができるようにしていく。「安心」では、児童生徒の手本になるあいさつを教員が行う。

分教室経営について分教室教頭からは、教育理念を受け小学部では、目標を「自分の目標に向かって周囲の人と共に 進んで取り組む児童」中学部では、「仲間と協力して 進んで活動に取り組む生徒」としている。「連携」では、保護者（学園）関係機関との連携、分教室が福用にあってよかったと地域住民に思ってもらえるような活動をする。そして、１０人の教員の良さを生かす。キャリアパスポートが学校で完結しないで、学園や保護者と共有する。また、パラスポーツを普及する。「安全」では、地域と協働した危機管理体制を整える。教職員のケアアップ研修に取り組む。

＜質疑応答＞

＊司)司会 委)委員 学)学校職員

委)昨年度から基本的な骨組みがしっかりとできている。プラスでキャリアパスポートや ICT 等が加わ

っている。さらに地域の力を取り込んでいくともっと良くなる。

委)ケアアップ研修とはどんな研修か？

学)不祥事根絶研修の名称を前向きなイメージの言葉に変えたもの「セルフケア」と「アップデート」を合わせた名称。今後、外部講師に依頼して行う研修もある。

委)地域(吉田町)に出て特産品を学んだり地域の住人と話したりすることはよい。

委)片岡会館や役場の掃除に感謝している。今後も片岡会館への出展をお願いしたい。

防災面で懸念点がある。

① 地域の住人へのアンケート結果で吉田特別支援学校には、900名ほどの避難希望者がいることが分かっている。優先順位としては「生徒の命」「設備を守る」。被災後に生徒を家族に引き渡す際、避難してくる地域住民と保護者のお迎えが交差してパニックになるだろう。その仕分けをどうするのか。学校の機能を守るには避難してきた人の交通整理が必要。

②夜間に無断で入る人をどう防ぐのか。避難者の流れを適切にさばくことが必要。

委)防災に関しては、学校で考えていることを保護者へ告知する必要がある。

委)子どもたちが社会に出ていくことを考えている。学校の中で学ぶことと、外へ出て学ぶことがある。地域の中でたくさんの経験をしてほしい。

委)大人のやりがいと手ごたえも大事。ICTでつないで授業を見れるとか、ICTの活用にはいろいろある。町づくりに高等部が参加して欲しい。「学校だけが抱え込まない」という旗を立てたのは良いと思う。

「静岡県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第4条の定めにより、令和7年度吉田特別支援学校経営計画は、出席委員6人全会一致により本会議で承認された。

(4) 校内参観

(5) 令和7年度つながり学習(ボランティア先生)について説明

本校のボランティア先生活用事業について年間予定を説明した。

委)生徒は、野菜が大きくなっていくのを見るのが楽しみ。今年度は稲作にチャレンジ。片岡会館の裏に水田を確保している。100キロから120キロくらいのお米が作れる予定。

学)地域の方に支えられていると感じる。

(6) 校長より

今日の会の中だけではなく、これからも気が付いたときに御意見をいただいて学校運営の参考にしたい。